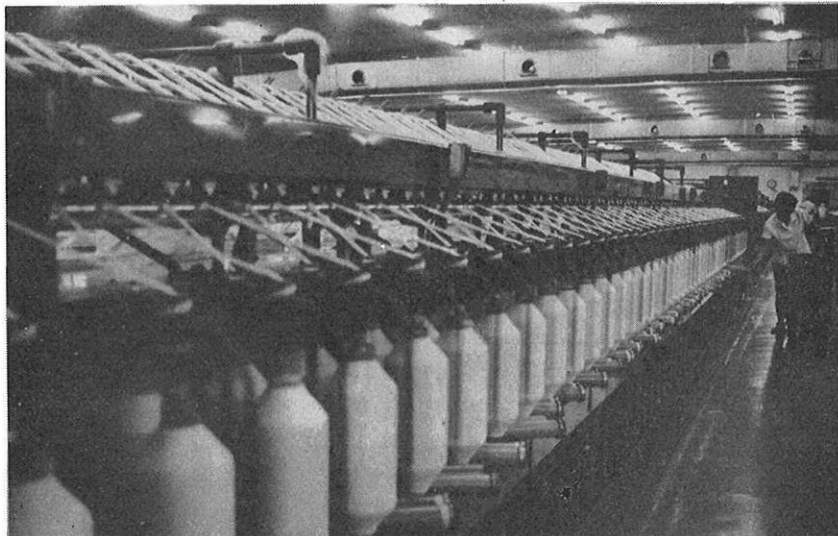


え機械金属工業など、男子雇用型企業  
の誘致に特に力を入れるものとする。

### 3 都市スプロールの防止

人口の都市集中化にともない、スプロール現象は、各都市にみられるが、

無計画無秩序な土地利用は、都市の機能を低下させるばかりでなく、地価の高騰をもたらし、企業立地の大きな障害要因となる。このため、新都市計画法や農業振興地域整備法との調和をはかりながら、計画的な造成をすすめる、効率的な土地利用をすすめる。



繊維工業も次第に大規模化されて……

### 4 交通基盤の整備

熊本市と周辺市町村とを結ぶ幹線道路や新熊本空港、九州縦貫自動車道、将来建設を計画する熊本新港との関連道路などの整備を進める。特に、熊本市と周辺市町村および周辺市町村相互の関連を深めるため、外環状線道路、中環状線道路、市街地環状線道路の形成、市街地主要街路の整備を促進する。

### 5 労働力の確保

将来、この地域における工業労働力は、表

### 6 工業用地、用水の確保

二に示すとおり、昭和五十年に五万四千人、昭和六十年に七万三千人が見込まれ、昭和四十二年に対して、それぞれ一・八倍二・四倍に達するものと考えられる。このため、労働力の確保をはかるとともに職業訓練など一連の対策についてその充実を期する。

昭和五十年および昭和六十年における工業出荷額に見合う用地は、昭和四十二年の約二百ヘクタールに対し、それぞれ二・二倍の約四百五十ヘクタール、四・七倍の約九百五十ヘクタールが必要となる。

このうち新たに必要とする面積約七百五十ヘクタールについては民間企業による造成を促すとともに、開発組織を新しく設け造成を計画する。

次に、工業用水については昭和五十年に約二十八万立方メートル/日、昭和六十年に約五十五万立方メートル/日が新規に必要となるので、白川、緑川の水資源総合開発事業および地下水の積極的開発などにより、工業用水の確保をはかる。

## 第4節 八代工業地帯の形成

八代市を中心に、その周辺八代郡一帯に及ぶ地域は、有明地域や、熊本地域とともに、県下における三大工業地帯の南の拠点形成を旨とし、また、不知火海から天草周辺に至る不知火海地域総合開発計画の中における重要な地域として、大きな発展が期待されている。

### ◇ 現況と問題点

八代地域は、早くから紙・パルプ・セメント、食料品、化学など大企業が立地して、県下最大の工業都市を形成し、県経済の発展進歩に大きな貢献をしてきた。

(二六頁へつづく)



写真は空からみた有明臨海工業地帯

《グラビヤ特集》

# 新しい工業地帯